

氏名	田 淵 三 郎		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 4 6 3 号		
学位授与の日付	昭和46年 6 月30日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)		
学位論文題目	外科領域における酸塩基平衡障害に関する研究		
論文審査委員	教授 田中早苗	教授 小坂二度見	教授 西田 勇

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

生体が生命を維持し、正常な代謝を行うためには homeostasis が維持されねばならない。pH は、この重要な一翼を担っているものである。著者の研究目的は、この pH を測定し酸塩基平衡の変動をみることにより現在一般に行われている諸検査と別の見地から患者の状態を知ることによって、患者管理をより巾広いものとするところにある。

著者は、患者の術前から術後 1 週間にわたり Astrup の micro-equipment を使用し pH を測定、酸塩基平衡の変動をみた。さらに循環血液量、Ht 値を測定し、一部は血清及び尿中 Na, K, cl, 血中の乳酸、焦酸も同時に測定した。その結果、術後の代謝性アシドーシスが重要なウエイトを占めることがわかった。特に、個体にたいする侵襲の大きなものほどその程度が強い。循環血液量も酸塩基平衡の変動と同じ様な経過を示し、術直後には減少し術後 1 週間前後に正常にかえる。これらの検討の結果、術中輸液としては 5% 糖液より Lactate-Ringer 液が優れており、又、Base Excess が  $-5\text{mEq/L}$  以下の高度な代謝性アシドーシスは Trishydroxymethylaminomethane (THAM) で補正する方がよい。術後の代謝性アルカローシスは特に補正を要しないが、アスパラギン酸 K の投与が、よりその程度を軽くする。

(岡山医学会誌 第83巻 第3・4号に掲載予定)

### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、手術前後の酸塩基平衡の変動の状態を手術の種類、程度、個体差、疾病差などについて観察し、その変動を補正、改善すべき輸液剤についても追求したもので、この方面における新知見を得たものとして、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。